

# ISM メーリングリスト トップページ

1. ISM メーリングリストとは？ .....	1
1.1 メーリングリストって？ .....	1
1.2 ISM メーリングリストって？ .....	3
2. ご注意ください .....	4
2.1 このグループの説明 .....	4
2.2 過去ログのダウンロード .....	4
3. 補足 .....	5
3.1 仕様 .....	5
3.2 コマンドメール .....	6

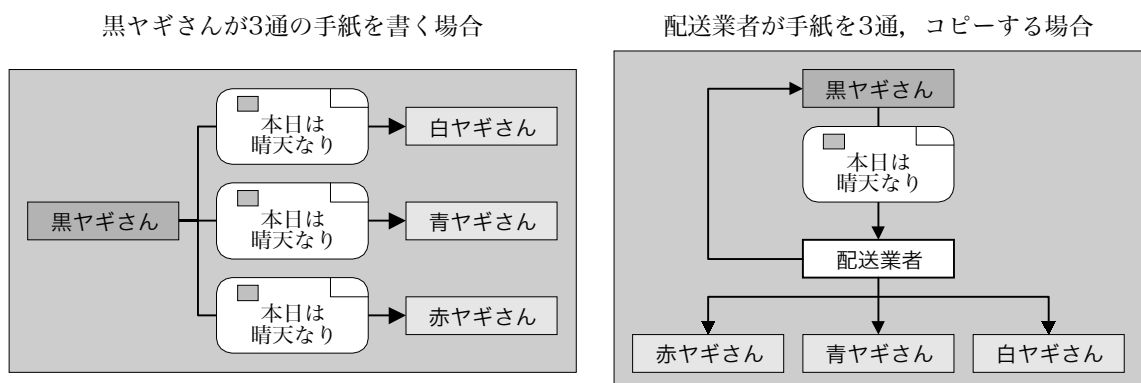
## 1. ISM メーリングリストとは？

### 1.1 メーリングリストって？

メーリングリストとは、要するに、同じ文面のメール (e-mail) を特定のメンバーに配る仕組みのことです。

手紙の例で考えてみましょう。黒ヤギさんが白ヤギさん、赤ヤギさん、青ヤギさんに同じ文面の手紙を送りたいとします。この場合には、黒ヤギさんは同じ文面の手紙を三通書いて、封筒も三つ用意して、三つの宛先にこれを送らなければなりませんね。ここで、便利な配達業者が登場します。黒ヤギさんがこの配達業者宛に手紙を出せば、この配達業者が文面をコピーして、封筒も三つ用意して、白ヤギさん宛、赤ヤギさん宛、青ヤギさん宛に——そしてご丁寧なことに黒ヤギさん宛にも——それぞれ郵送してくれるわけです (図 1)。

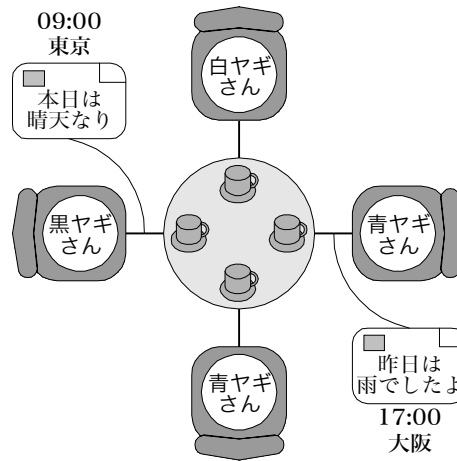
図 1 配達業者による手紙のコピー・郵送



黒ヤギさんが発した同じ一つのメッセージを、白ヤギさん、赤ヤギさん、青ヤギさんが受け取ることができ、またこのメッセージに対して、白ヤギさんも赤ヤギさんも青ヤギさんも、例えば"昨日は雨でしたよ"と今すぐにでも、あるいはもっと後にでも、答えることができます。そうすると、黒ヤギさん、白ヤギさん、赤ヤギさん、青ヤギさんは、手紙を通じて、会議をやっているようなことになりま

す。しかも、便利なことに、この会議は時間的にも空間的にも制約されていません。つまり、同じ場所に、同じ時刻に集まらなくても、会議をすることができるわけです（図 2）。

図 2 手紙を通じての会議



こういうことを、メーリングリストは、手紙（郵便）を通じてではなく、e-mail を通じて、可能にするわけです。メーリングリストは、いわば、e-mail を通じて行われる——時間的にも空間的にも制約されない——電子会議なのです。一般に、メーリングリストは、主催者、参加者、サービス提供者——手紙の例では配達業者に相当する——から構成されます。

けれども、実際の話、郵便の場合には、こんなまどろっこしいことやっつけられませんね。いまが02月の15日であるとしましょう。気象庁発表のデータでは、15日が晴れ、16日が雨、17日が雪だとしましょう。——さて、15日の15:00に黒ヤギさんが“本日は晴天なり”と書いたところで、それが皆さんの手許に届くのは16日の昼間でしょう。16日は雨なので、なにが“本日”なのか、バカらしくなってきます。その時運よく白ヤギさんが自宅にいて、それへの返事を書くとしても、黒ヤギさんが言っている“本日”とは要するに白ヤギさんにとっては昨日のことですから、白ヤギさんは“いや、本日は雨なんですけど……”ということになります。それからすかさず白ヤギさんがこの返事を投函しても、それが皆さんの手許に届くのは17日ですから、届いたときにはもう雪になっており、みんなしらけてしまいます。こんな“会議”，馬鹿馬鹿しくてやっつけられません。

1) 技術的な問題に詳しい方への注。インターネットメールヘッダのCc (Carbon copy) フィールドに参加者リストを作成しておき、投稿者がこの参加者リスト宛に投稿すると、メーリングリストと同様な会議をすることができます。しかも、この場合にはメーリングリストの場合とは異なってプロバイダに手数料を支払う必要もありません。そこで、何もメーリングリストを利用することはなく、Cc フィールドを利用すればいいという考えもあり得るでしょう。

けれども、メーリングリストには以下のようなメリットがあります。——

1. 既存の参加者のアドレスが変更されても、あるいは新しい参加者のアドレスが追加されても、名簿の一元的な管理によって直ちに対処することができます。参加者は名簿を管理する必要がなく、また管理者は名簿管理をサーバに任せることができます。
2. 会議の参加者をクロードにする（限定する）ことができます。
3. 同じ配付先のリストを複数作ることができます。実際にまたISM MLにはism-studyとism-topicsという二つのメーリングリストがあります。
4. Cc フィールドに対応していないような通信環境（例えばパソコン通信）を使っている方も参加することができます。
5. 表題に連番を自動的に振ることができます。

ところが、e-mail を使うと瞬時にこのような会議をすることができるのです。もちろん、黒ヤギさんは好きな時に発言していいし、白ヤギさんも好きな時に返事をしていいのですが、ひとたび発言したり返事をしたりするやいなや、瞬時に皆さんのところにその発言・返事が届くのです。

しかも、郵便には随分とランニングコストがかかります。一通、国内に郵便を届けるのに、葉書で50円、封書で80円もかかります。結局のところ、配送業者はコピーしようと、結局のところ、4通の郵便が必要になるわけで、葉書で考えても全部で200円もかかります。もし会議の参加者が1000人であるならば、“今日は晴天なり”というたった一言を参加者に伝えるのに、全部で50,000円もお金が必要になってしまいます。

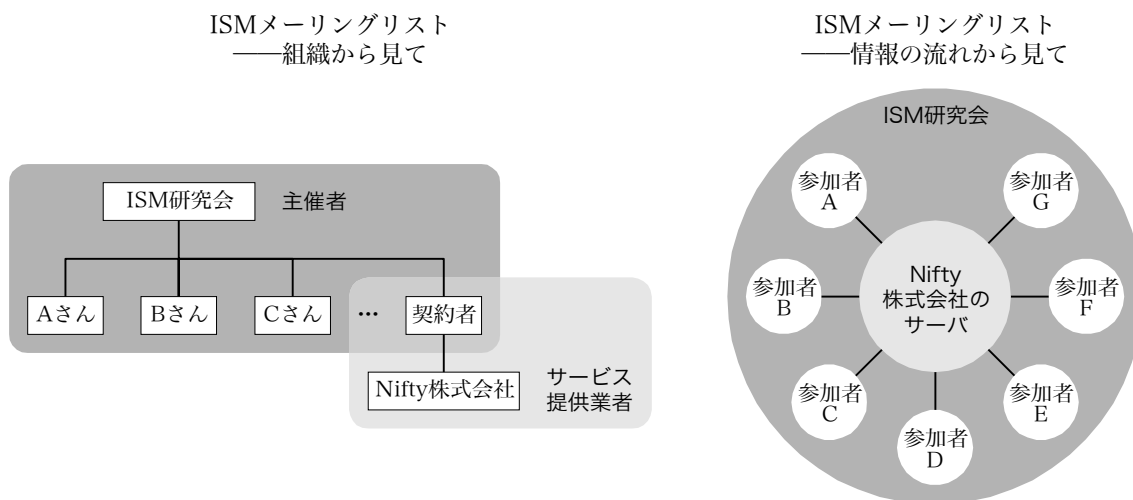
ところが、e-mail を使うと殆どゼロ円でこのような会議をすることができるのです。黒ヤギさんが4通のメールを送信するのに要する時間は（いろんな条件によって変わりますが）1秒程度でしょう（1通のメールを送信しても1000通のメールを送信しても送信時間は変わりません）。市内通話料金3分10円で考えてみても、黒ヤギさんが4通のe-mailを送るのに必要なお金は1通当たり約0.014円です。もし会議の参加者が1000人であるならば、1通当たり0.000056円です。

## 1.2 ISM メーリングリストって？

ISM 研究会の会員は全国に散らばっています。また、会員の時間的な都合からなかなか同じ時間に集まることができません。そこで、ISM 研究会はメーリングリストを開催しています。これをISMメーリングリスト（略称ISM ML）と呼びます。

ISM メーリングリストでは、主催者はISM 研究会、参加者は（差し当たって）ISM 研究会会員の中でアドレスを持っている者、サービス提供者はニフティ株式会社です。同社とメーリングリスト契約を結んでいるのは今井であり、従って同社に支払うべきサービス料金についても今井が代理支払をします（図3）。

図3 ISMメーリングリストの概念図



このように、組織から見ると、(i) 主催者であるISM 研究会とサービス提供者であるニフティ株式会社とは全く別組織です。しかも (ii) ニフティ株式会社が対人的に権利行使することができるのはISM 研究会に対してではなく、契約者（今井）に対してだけです。従って、一応、ISM メーリングリストはISM 研究会の管轄の下に行われ、ISM メーリングリストについてはISM 研究会が私的自治を行使することができると言えます。以上の点から見ると、ISM メーリングリストは、密室での会議、あるいは通信の秘匿が憲法的に保証された封書のやり取りと類似しています。

けれども、情報の流れから見ると、(i) ISM メーリングリストに投稿された総てのメールは——投稿者がニフティ株式会社からメールアドレスを取得していようといまいと——必ずやニフティ株式会社

のメーリングリストサーバを通過します。しかも、(ii) ニフティ株式会社と契約者との契約において、ISM メーリングリストに投稿された総てのメール——その投稿者のメールアドレスがニフティから取得されたモノであろうとあるまいと——について、ニフティ株式会社は検閲権を留保しています。以上の点から見ると、ISM メーリングリストは公開の場での会議に類似しています。

ニフティ株式会社と契約者（今井）との間で締結されたメーリングリスト利用規約については、—

<http://www.nifty.com/mail/ml/rules.htm>

をご覧ください。なお、契約の一方の当事者であるニフティにとっては、契約者（今井）は——ISM メーリングリストの主催者であろうとあるまいと——“管理者”として現れ、従ってまたニフティ株式会社は契約者（今井）に対して管理義務を課しています。

差し当たって、(1) 或る特定の課題について共同研究する **ism-study** と、そして、(2) 世間話、無駄話、連絡など、それ以外の話題を取り扱う **ism-topics** と、二つのメーリングリストが、ISM メーリングリストには含まれています。

このメーリングリストに参加するためには、登録作業というものがが必要です。メールアドレスをもっている方でまだ ISM ML に参加していない方がいらっしゃるならば、今井のところまでご連絡ください。直ちにあなたのメールアドレスを登録いたします。そうすれば、あなたのメールアドレス宛に ISM ML への投稿が送信されてくるようになり、またあなたが ISM ML に投稿することができるようになります。

---

## 2. ご注意ください

---

### 2.1 このグループの説明

- ISM メーリングリストに投稿したり、ISM メーリングリストを閲覧したりする前に、“ISM メーリングリスト規則”のページ、“ISM メーリングリスト標準書式”のページ、“ご注意ください”のページをご覧ください。
  - “ISM メーリングリスト規則”のページでは、ISM メーリングリストの規則を入手することができます。
  - “ISM メーリングリスト標準書式”のページでは、ISM メーリングリストへの投稿を書く際の書式（推奨）を知ることができます。
  - “ご注意ください”のページでは、ISM ML に投稿する際の諸注意を知ることができます。この諸注意の中には、メーラの設定法、使ってはいけない記号、議論の流れの位置付けなどが含まれています。
- ism-study の過去ログ（過去の投稿の記録）をダウンロードしたい場合には、“ism-study 過去ログ（ツリー）”のページ、あるいは“ism-study 過去ログ（投稿順）”のページをご覧ください。
  - “ism-study 過去ログ（ツリー）”のページでは、過去ログ（後述）がコメントリンクを辿って、ツリー（木構造）形式で整理されています。議論の論理的な流れを知りたいときに便利です。
  - “ism-study 過去ログ（投稿順）”のページでは、過去ログ（後述）が投稿時間順に整理されています。議論の時間的な流れを知りたいときに便利です。

### 2.2 過去ログのダウンロード

- ここでは、過去ログとは、これまでに ISM ML に投稿されたメールの記録のことです。
  - 過去ログには、投稿者氏名、投稿日時、投稿表題、投稿本文、そしてその投稿の元発言と、その投稿に対するコメントとの情報が含まれています。

- “ism-study 過去ログ（投稿順）”のページには一括ダウンロード用のファイルがあります。或る程度の量の過去ログを一度にご覧になりたい場合には、一括ダウンロード用のファイルをダウンロードしてください。
- 一括ダウンロード用のファイルには PDF 形式と Html 形式（Lha 圧縮）とがあります。
  - PDF ファイルについては、“最初にご覧ください”グループの“ファイルのダウンロードについて”のページの“PDF”項目をご覧ください。
  - Lha 形式については、“最初にご覧ください”グループの“ファイルのダウンロードについて”のページの“Lha”項目をご覧ください。
- その他、ダウンロード全般については、“最初にご覧ください”グループの“ファイルのダウンロードについて”のページをご覧ください。

### 3. 補足

この項目は技術的な問題に詳しい方だけご覧ください。

#### 3.1 仕様

ISM ML は次の仕様で運営されています。――

表 1 ISM ML の仕様

POP3	m1a.nifty.ne.jp
SMTP	m1a.nifty.ne.jp
ML 管理ソフト	Majordomo Ver. 1.94.4
最大参加者数	300 人

なお、Majordomo はニフティ株式会社によってカスタマイズされています。Majordomo の設定の主要なものについて言うと、――

表 2 Majordomo の設定

subscribe_policy（参加方法）	closed（管理者による承認が必要）
Unsubscribe_policy（脱退方法）	open（管理者による承認は不要）
restrict_post（投稿資格）	[当該メーリングリストの参加者に限る]
maxlength（メールの 1 通当たり最大容量）	1,048,576byte
moderate（管理者による配布前検閲）	no（無し）
reply_to（Reply-To ヘッダのアドレス）	[当該メーリングリストのアドレス]

Majordomo のアーカイブ機能は使用していません。けれども、ism-study の過去ログについては、既に ISM 研究会のサイトからダウンロード可能になっています。また ism-topics の過去ログについても、今井に言うていただければ、添付ファイルあるいはその他の方法でお送りいたします。従って、アーカイブ機能がないということは問題にならないと考えています。

また、Majordomo のダイジェスト機能も使用していません。何故ならば、現状の規模では、参加者には、どうしてもダイジェストで投稿を受信したいという要求を想定することができないからです。

## 3.2 コマンドメール

ISM ML において参加者が利用することができるコマンドは事実上、脱退コマンドだけです。けれども、脱退したい時には今井に連絡していただければ、直ちに脱退手続きを取りますので、これも不要かと存じます。

脱退したい時、しかもどうしても今井に連絡したくない場合には、コマンドメールをお使いください。メールコマンドメールの宛先は、――

Majordomo@mla.nifty.ne.jp

です。Subject フィールドは空白にしてください。もしメーラ／通信ソフトの都合上、Subject フィールドに何か書かないとメールを送信することができない場合には、“a”とでも書いておいてください。

ご自身で脱退措置をとる場合には、このメールの body の第一行目に、――

unsubscribe [脱退したいリスト]

とお書きください（その他には何も書かないでください）。Majordomo は From フィールドのアドレスを自動的に解析して、当該アドレスを消去します。

もし止むを得ざる事情によって、メールリングリストに登録されているアドレス（つまりそれ宛にメールリングリストからメールが送られてくるアドレス）とは別のアドレスから上記コマンドメールを送らざるを得ない場合には、――

unsubscribe [脱退したいリスト] [前者のアドレス]

のように、前者のアドレスを付け加えてください。そうすれば、Majordomo は From フィールドのアドレス（後者のアドレス）を無視して、前者のアドレスをリストから消去します。例えば、前者のアドレスが abc@provider.ne.jp である場合には、上記メールの本文（body）の第一行目と第二行目とに、――

unsubscribe [脱退したいリスト] abc@provider.ne.jp

とお書きください。

その他、コマンドメールについては、――

[http://www.nifty.com/mail/ml/uManual\\_etc.htm](http://www.nifty.com/mail/ml/uManual_etc.htm)

をご覧ください。